

今日のトピック ブラジルの金融政策(2014年10月)

予想外の政策金利引き上げ

ポイント1 政策金利を0.25%引き上げ 予想外の決定

■ブラジル中央銀行(以下、中銀)は29日、政策金利を0.25%引き上げ、11.25%とすることを発表しました。ブルームバーグがまとめた事前予想では、54名のエコノミストのうち53名が政策金利の据え置きを予想(1名が0.25%の利上げを予想)していました。

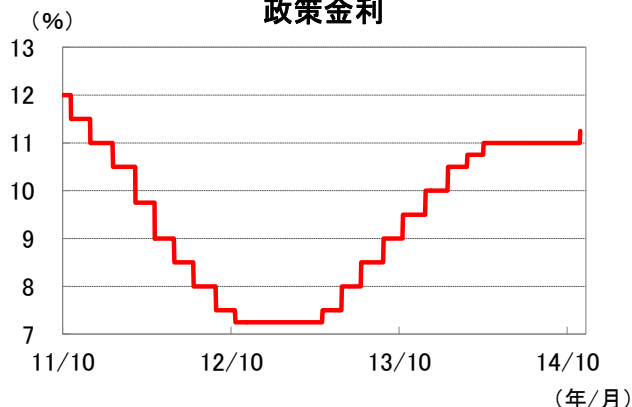
■利上げは今年4月から4会合ぶりで、昨年4月以降の利上げ幅は合計で4.00%になりました。

ポイント2 物価見通しの悪化を懸念 5対3の賛成多数で利上げを決定

■声明文では、先行きの物価見通しが悪化しているとの懸念が示されました。電力料金など公定価格の引き上げや足元のブラジルレアルの下落の影響を念頭に、早期に引き締めを実施することで市場の物価見通しを抑える狙いがあると思われます。

■政策委員のうちトンビニ総裁を含む5人が利上げを主張し、3人が据え置きを主張しました。物価高への警戒とともに、景気低迷に配慮する考えも根強い模様です。

政策金利



消費者物価指数 (前年同月比、%)



(注1) 政策金利は2011年10月1日～2014年10月29日。
消費者物価指数は2011年10月～2014年10月(2014年10月は月前半)。
(注2) 消費者物価指数の市場予想は、ブラジル中央銀行が10月27日に発表した調査結果。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 2期目を迎えるルセフ政権の経済政策見直しに注目

■市場の物価見通しが下げ渋る一方、景気の低迷が続いており、中銀は金融引き締め姿勢を当面続けながらも、次回会合(12月2日～3日)以降の追加利上げについては、慎重に検討すると見られます。

■再選が決まったルセフ大統領は、財務相の変更などを通じて経済政策を見直す方針を示してい

ます。金融政策による景気支援が難しいなか、2期目のルセフ政権には、中長期的な経済成長を高める政策への転換が期待されます。

■物価目標の重視、税制の透明性や公平性の向上、財政赤字削減といった、対抗馬のネーベス氏が掲げた市場の評価の高い政策をどの程度取り入れるかが当面の注目点となりそうです。

ここも チェック!

2014年10月27日【キーワード No.1,441】大統領選決選投票の結果(ブラジル)

2014年10月16日【デイリー No.1,970】最近の指標から見るブラジル経済(2014年10月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。